

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972300129		
法人名	有限会社サンコーポレーション		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	奈良県宇陀市榛原萩原750		
自己評価作成日	平成24年7月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36 大和ビル3階		
訪問調査日	平成24年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは、緑豊かな駅にも近い市の中心部に立地し、地域の方々が気軽に足を運べる環境にある。同じ敷地内に小規模老人ホームやカルチャー教室があり、全館スプリンクラー設備と共に、今春3月に耐震工事も実施し、玄関からの外出も更にスムーズになった。食事は新鮮な食材を使い栄養バランスの良い手作り料理を提供することで、体調管理に努めている。スケッチ画・英会話お茶会・盆踊りなどのボランティアの方々にも多数参加していただき、楽しみの時間もたくさん作っている。家族のようなアットホームな雰囲気の中、利用者様がその人らしく有意義な余生を送れるように職員全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は私鉄の駅からも近く、周りには市役所やショッピングセンターなどがある。この地域には古くからのお祭りが多く、利用者の楽しみになっている。今年玄関がバリアフリーになり、外出がよりスムーズになった。事業所内では、ボランティアによって文化的な活動が積極的になされている。食事は、新鮮な野菜をふんだんに使った手作りポリウムもあり、味や盛りつけにもこだわっている。利用者の評判もとても良い。居間には小型犬が飼われており、利用者の笑顔を引き出し、癒しになっている。住み慣れた地域の家庭的な環境のもとで、その人らしく安心した生活をおくれるように努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日々の介護の中で理念を確かめ合いながら、実践に向けて取り組んでいる。	住み慣れた地域の家庭的な環境のもとで、その人らしく安心して生活をおくれるように支援することを理念としている。事業所内の何力所かに掲示され、職員は日々確認し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が地域の行事等に参加し、また、施設の行事は地元の人にも参加してもらい、入居者との交流を深めている。	この地域では、どんど焼き、宇陀初えびす、花火大会、おかげ祭り、秋祭りなど年間通して行事が多く、利用者の楽しみになっている。事業所が主催する夏祭りには、多くの地域住民も参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議に参加していただき、認知症の理解を深めてもらい地域の人々に活かしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・市職員・消防署・社会福祉協議会・老人会・自治会・民生委員の方々に会議に参加していただき、地域密着した取り組みを勉強している。	市役所、社会福祉協議会、消防署の担当者や自治会長、民生委員、家族代表などが参加し、6ヶ月に1回開催されている。事業所からの報告とともに、それぞれの担当者からの説明や意見をいただきサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者と常に連絡を取り合い情報交換を行い、お互いが信頼と協力関係を維持できる様にとめている。	運営推進会議では毎回市の担当者が参加し、情報交換しながら協力関係を築いている。また、事業所が主催する行事にも市の関係者が参加し、理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束しないケアが取り組めるように、あらゆる角度から利用者本意の介護の方法を追求している。	玄関は、すぐ前の道が車の往来が頻繁で危険なため、施錠されている。一時的に車いすの安全ベルトやミトンの手袋を使用した。職員で話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員が心にゆとりを持ち、利用者に対して愛情を持ちケアが実施できる様に、勉強会を行い虐待防止につとめている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、施設職員に勉強会を実施し、理解を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に不安や疑問を感じさせないように、事前説明を十分に行い、利用者や家族等からの質問には理解・納得が図れるよう丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が利用者や家族と常にコミュニケーションをとるようにつとめ、意見を聞くようにし、運営に反映させている。	家族からは主に面会時に話を聴いている。事務所で1対1で話をすることもあり、何でも気軽に言ってもらっている。利用者からは、毎日着る服や食事の献立など希望を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常日頃から施設運営等について問題が生じた場合はリアルタイムに職員の意見を聞くような体制にしている。	職員の意見は、管理者と共に日々活動する中で聴くようにしている。職員も積極的に意見を言いやすい雰囲気がある。重要な事項は月1回の会議で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力・実績・勤務状況を把握し、職員と意見交換し、各自が向上心を持って働ける様、明るい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は各種研修に参加し、ケアの向上が行えるように内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、各種大会や会合にも積極的に参加し、情報交換や勉強会にも参加してサービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報を元にフェースシートを作成して職員全員が情報を共有し、コミュニケーションが円滑になる様につとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入所をしてもらい、本人と家族が納得した上で、入居してもらうことにしている。家族の困り事・要望に耳を傾け、受け入れ体制づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人と家族の思いをしっかり把握し、幅広い支援の方法をとるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を家族の一員として接して生活を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係が保てるように、面会時間を一応もっているが、家族の意向で自由に面会の機会を持っていたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れた本人の愛用品を居室に持ち込んでいただくようにしている。馴染みの場所に、一緒に外出し(墓、旧家等)本人の思いを尊重できるよう支援に努めている。	地元の利用者が多く、慣れ親しんだ地域のお祭りやイベントが多くあるので、楽しみになっている。出かけた時に、知り合いに出会うこともある。馴染みのところに買い物に行ったり、エステに行ったりするのを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調が許す限り、リビングの円卓で過ごしていただき、職員が声かけをしながら全員がなごやかに過ごせる様に見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設のイベントの参加や近くに来られた時には立ち寄っていただけるように声かけをし、本人と関係が円滑に行くようにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活(会話)の中から、本人の希望等の把握に努め、また家族の意向も取り入れるように努めている。出来るだけその人らしく過ごせるように努めている。	利用前に家庭訪問し、利用者や家族の意向を聴くようにしている。センター方式のアセスメント用紙を利用し、できること・できないこと・したいことなどの把握に努めている。普段の生活の中で、本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から今までの生活環境や暮らし方を十分に聞き取り、今後の生活に反映できるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭にいる時のように本人に出来る事を積極的に参加してもらい、本人の持っている力を生かせるようにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を十分に聞いた上で、管理者と職員が意見交換を行い、本人や家族の意見を出来る限り取り入れ、利用者本位の計画になるように努めている。	利用者や家族の思いを受け止め、管理者や職員の意見を参考に介護計画が立てられている。半年に1回評価をし、更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に出来る限り詳細に記入し、職員間で情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況ニーズに対応できる様に柔軟な支援・サービスにつなげられる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベント等に積極的に参加してもらい、利用者様が心豊かに安心して暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は定期的に往診にきていただき又、緊急時にも対応してもらっている。	3週間に1回、内科の主治医の往診がある。緊急時にも、24時間対応してくれる。皮膚科の往診もある。家族の希望で、他の病院に受診することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者や看護師が常に訪問看護師に相談出来る状況にあるので、利用者が看取りを含め適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時に入院できる病院を複数確保しており、病院関係者との情報交換もスムーズに出来るような体制づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人や家族の意向を十分に聞き、主治医や訪問看護師との協力も得て、看取りを行えるように取り組んでいる。	契約書に事業所の看取りの方針が記載されている。主治医と相談し、訪問看護を利用して、本人や家族の思いに沿った対応ができるようにしている。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えてマニュアルを作り、勉強会を実施し、事故発生時に実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全館スプリンクラーの設置や、耐震化工事も実施した上で、年2回消防署の指導のもと避難訓練を実施している。	年2回、避難訓練を実施している。玄関をバリアフリーにし、避難誘導がしやすくなった。スプリンクラーや緊急通報装置の設置も終了している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけないように言葉かけに配慮している。	一人ひとりの思いを大切にしている。入浴や排泄は同性介護をしている。各部屋には、扉を開けてもすぐに見えないように入口に「のれん」をかけている。一人ひとりに合った声掛けを工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と利用者が常にコミュニケーションを取り、本人の意見を言いやすい環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員だけでなく、利用者の意見を取り入れ、一人ひとりのペースを尊重し、その日の過ごし方を聞き入れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師に散髪に来ていただき、利用者様が清潔・身ざれいになる様に心がけている。本人の好みに合った服装が出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者より献立の希望を聞くようにし、利用者が食事の準備や片付けに参加出来るように心がけている。	新鮮な野菜をふんだんに使った手作りの食事で、ボリュームもあり味や盛りつけにもこだわっている。利用者の評判もとても良い。外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一時間毎に水分摂取を行い、多種の食材を使いバランスのとれたバラエティに富んだ食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一時間毎にトイレ誘導を行い、失禁やオムツの使用を減らせるように支援している。	リハビリを兼ねて1時間に1回トイレ誘導をし、昼間の排泄パターンを記録している。人によっては、居室にポータブルトイレを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事摂取と適度の運動水分摂取を促し、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯はあらかじめ決められているが、体調や本人希望に合わせて時間や入浴方法の変更(足浴等)を実施している。	基本的に週に3回、午前中に入るようにしている。早く入っていただくために、声掛けにも工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後や体調に合わせて短時間の休息時間をつくり夜間は安眠ができるよう個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬記録を作成し、職員が常日頃からノートに目を通し、注意点を確認している。食後の服薬を確認し、症状の変化の確認につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内犬の世話・洗濯たたみ、料理や食器洗いの手伝い・掃除の手伝い等その人に応じてできる事をしてもらえよう役割分担をしている。あやとり・お手玉・百人一首・大正琴・俳句・唱歌等の時間も設け、生きがいもてるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を出来る限り聞き、又、家族にも相談し買い物や美容院等への外出の機会を増やすようにしている。	日常的には、事業所の敷地内を散歩したり、月1・2回買い物や外食に出かけたりしている。また、デッキに出て外気浴をすることもある。地域のお祭りやイベントで外に出る機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じてお金を所持して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心地良い音楽を流し、室内には季節の花々を飾り、壁には入居者の描いた絵や書、写真を掲示している。また室内犬を飼い、家族の一員としてアットホームな雰囲気作りを心掛け、利用者にとって心とむ空間作りをしている。	居間兼食堂には、テーブル席とソファーがあり、食事後は好きなところでくつろぐことができる。季節の飾り付けがなされ、生花も飾られている。南側にデッキがあり、天気の良い日は、外気浴をすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやホームこたつ等の場で、ゆっくり話ができる様に居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や持ち物・仏壇等を持ち込んでもらっている。個々に応じたのれんと手作りのネームプレートを部屋の入り口に掛けて自分の部屋に愛着を持ってもらい、心地よく過ごせるように工夫している。	入口にはそれぞれに手作りの表札があり、のれんが掛けられている。居室内には、大きなクローゼットがあり、1年分の衣類を収納することができる。洗面台も設置されている。使い慣れた椅子やタンス、鏡台や仏壇などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをたくさん設置し、杖・手すり歩行し出来るだけ寝たきりにならない様自立した生活を送れるように工夫している。		